

SIHD REPORT



中小企業の経営の改善及び
地域の活性化のための取組みの
状況について（2020年度）
～金融仲介機能のベンチマーク～



池田泉州ホールディングス

池田泉州銀行 池田泉州ＴＴ証券

目次

I. 経営ビジョン『Vision' 25』について	2
II. 第5次中期経営計画について	2
III. 中小企業の経営支援及び地域の活性化に関する取組方針	3
IV. 中小企業の経営支援及び地域の活性化に関する態勢整備の状況	3
(1) 課題解決力、提案力の強化のための体制整備	3
(2) 経営課題に応じた最適な事業再生支援策を提供するための体制整備	3
(3) 企業のライフステージに応じたサポートを行うための体制構築	4
(4) 銀行を中核とした当社グループによる総合金融サービスの提供	4
V. 中小企業の経営支援及び地域の活性化に関する取組状況	4
1 提携ネットワークの整備状況	4
(1) 地元の自治体との連携	4
(2) 主要な大学・公的研究機関との連携	5
(3) 公的機関等との連携	5
(4) 他の金融機関等との連携	5
(5) 当社グループのネットワークを活かしたビジネスマッチングの実施	5
2 企業のライフステージに応じた取組状況	5
(1) 創業・新規事業開拓の支援（主に創業期）	5
(2) 成長段階における支援（主に成長期・安定期）	6
(3) 経営改善・事業再生・業種転換等の支援（主に再生期・低迷期）	8
(4) ライフステージ別の与信先数（先数単体）及び、融資額	8
3 中小企業に適した資金供給手法の取組状況	9
(1) 事業価値を見極める融資への取組状況	9
(2) ファンドを活用したサポート力の強化	9
(3) 経営者保証に関するガイドラインへの取組状況	9
VI. 中小企業の経営支援及び地域の活性化に関する当社グループの重要指標（KPI）	11
(1) 提案力強化に関する当社グループの重要指標（KPI）	11
(2) ファンドの活用に関する当社グループの重要指標（KPI）	12
(3) 経営改善・事業再生・業種転換等の支援に関する当社グループの重要指標（KPI）	12
(4) 地域活性化に関する当社グループの重要指標（KPI）	12
(5) 中小企業に適した資金供給に関する当社グループの重要指標（KPI）	13
VII. 「中小企業の経営支援及び地域の活性化」に関する取組みの成果	13
(1) 中小企業向け取引の拡充	13

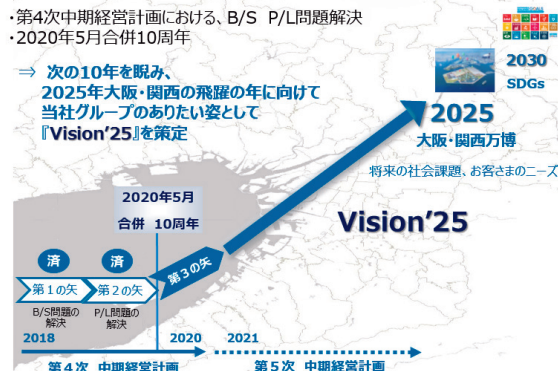
当資料は、金融庁の「中小・地域金融機関向けの総合的な監督指針」および、2016年9月に公表された「金融仲介機能のベンチマーク」に沿って作成したものであり、資料中の[共通][選択]を付した番号は金融庁が公表した資料の中で示した共通5項目、選択50項目に該当するものです。なお、[独自]は当行が独自に採択した重要指標です。

中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況（2020年度）

I. 経営ビジョン『Vision'25』について

池田泉州銀行（以下、「当行」という）を中核とする池田泉州ホールディングスグループ¹（以下、「当社グループ」という）は、2020年5月、2025大阪・関西万博を見据え、地域が一丸となって「いのち輝く未来社会のデザイン」づくりに集中していく2025年に焦点を当て、新しい時代の大阪・関西のお役に立ち、次の10年においても皆さまから愛される金融グループであるための旗印として『Vision'25』を策定しました。

『Vision'25』の概要



II. 第5次中期経営計画について

加えて、本年5月、当社グループは、第5次中期経営計画を策定しました。この第5次中期経営計画では、「成長戦略・生産性向上」を重点戦略と位置づけ、「徹底したソリューションビジネスの構築・提供」をメインテーマとして、「お客様起点」の営業施策を展開することを掲げております。

第5次中期経営計画の概要

第5次中期経営計画（2021年度～2023年度）	
重点戦略（成長戦略・生産性向上）	2023年度目標（2020年度実績）
1. 徹底したソリューションビジネスの構築・提供 ・池田泉州HDグループ 各々のソリューション営業体制＜5部門設置＞ ・ホールディングスグループ機能の強化	HD連結 当期純利益※ 70億円 （+20億円増減）
2. お客さま起点主義の徹底	ROE 3%前半 （+1%増減）
3. 第5次中期経営計画を支える体制整備 ・お客さまの利便性向上と更なる業務の効率化/コロナへの対応	自己資本比率 11%前半 （+2%増減）
4. 人材戦略 ・人材戦略/銀行本体人員とソリューション人材計画について	BK団体 コア業務純益 115億円 （+20億円増減）
5. 資本・配当政策	本業利益 70億円 （+20億円増減）
6. サステナブル経営	コアOHR 78%台 （+3%増減）

※当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益



徹底したソリューションをご提供するため、グループを俯瞰する5部門を設置し、「グループ一体によるスピーディなソリューションの提供」「グループシナジーの発揮」に努め、環境や課題・ニーズの変化に素早く対応し、変化する未来社会に果敢にチャレンジしてまいります。

¹ 池田泉州ホールディングス、池田泉州銀行およびその子会社、池田泉州TT証券、自然総研

中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況（2020年度）

(3) 企業のライフステージに応じたサポートを行うための体制構築

- ・当行は、取引先企業の事業内容や成長性などを適切に評価（「事業性評価」）した融資や、コンサルティング機能の発揮による経営改善の支援等、ライフステージに応じた取引先企業へのサポートを図るべく、「中小企業サポート向上に関する基本方針」を制定しております。

(4) 銀行を中核とした当社グループによる総合金融サービスの提供

- ・当社グループでは、グループ一体となった総合金融サービスの提供を行っております。
- ・池田泉州キャピタルはベンチャー企業に対する成長マネーの供給、池田泉州TT証券はお客さまの資産運用ニーズに対する様々な提案やアドバイス、池田泉州リースは各種リースに関するニーズにお応えしております。



V. 中小企業の経営支援及び地域の活性化に関する取組状況

1 提携ネットワークの整備状況

当社グループでは、地元の自治体、主要大学、公的研究機関及び公的金融機関等との提携ネットワークを構築し、グループの提案力・サポート力の強化に取り組んでおります。

(1) 地元の自治体との連携

- ・25地元自治体と産業振興連携協定を締結し、「産業振興融資ファンド」「地域創生融資ファンド」を創設、商工会議所とも連携しながら、地域の活性化とお客さまサービスの向上に努めております。

【表01】連携自治体数

連携協定を締結した自治体等（2021年3月末時点）	25先
---------------------------	-----

- ・加えて、この連携をベースに、定住から妊娠、出産、子育てなどのライフステージに応じた、商品・サービスの提供を通じて、地域の活性化に取り組んでおります。主な商品ラインナップ及び実行状況は以下のとおりです。

【表02】各種融資商品・預金商品の取扱状況

「エンゼルつみたて定期預金」取扱開始（3市町で取扱） （2007年11月開始以降、2021年3月末までの取扱件数／取扱金額の累計）	6,163件／1,795百万円
「親元近居住宅ローン、転入促進・定住促進住宅ローン」 取扱開始（13市町で取扱） （2013年4月開始以降、2021年3月末までの実行件数／実行金額の累計）	754件／15,988百万円
「妊活・育活応援ローン」取扱開始 （2016年1月開始以降、2021年3月末までの実行件数／実行金額の累計）	182件／232百万円

【表03】施策の取組状況

当行店舗内に「赤ちゃんの駅」設置 （2012年4月開始以降、2021年3月末まで）	14市町33店舗（28拠点） に設置
--	-----------------------

中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況（2020年度）

(2) 主要な大学・公的研究機関との連携

- ・産学官の連携による地域の活性化を図るべく、主要な大学16校、公的研究機関10機関と連携しております。

【表04】 連携大学数、連携公的研究機関数

連携協定を締結した大学等 (2021年3月末時点)	16先
連携協定を締結した公的研究機関等 (2021年3月末時点)	10先

(3) 公的機関等との連携

- ・大阪労働局、大阪観光局、近畿総合通信局等の公的機関と連携協定を締結し、お互いのノウハウを活かし取引先企業のサポートを行っております。

(4) 他の金融機関等との連携

- ・また、国内外の金融機関と積極的に連携し、取引先企業のサポートを行っております。海外の金融機関との業務協力協定は12の国・地域の海外現地銀行12行となりました。

【表05】 連携金融機関数

連携協定を締結した国内公的金融機関 (2021年3月末時点)	3先
連携協定を締結した海外現地銀行等 (2021年3月末時点)	12先 (12の国・地域)

(5) 当社グループのネットワークを活かしたビジネスマッチングの実施

- ・取引先企業が抱える様々な課題を的確に解決するために、多様なビジネスマッチングを展開しております。

2 企業のライフステージに応じた取組状況

当社グループでは、企業のライフステージに応じた様々な施策・商品をラインナップしております。目的に応じた融資商品に加え、成長マネーの供給やベンチャー育成、外部専門家のノウハウの提供等を目的としたファンドを用意するとともに、様々なセミナー等を通じて、取引先企業をサポートしております。

(1) 創業・新規事業開拓の支援（主に創業期）

① 「創業応援窓口」の設置

- ・創業に関する相談受付を行う「創業応援窓口」を設置、創業計画の策定から資金調達・開業まで、地元自治体・商工会議所等と連携し、外部専門家の紹介や国・自治体の補助金活用の案内等、起業するお客さまをトータルでサポートしております。

② 創業・新規事業を応援する各種ローンをラインナップ

- ・以下のとおり創業・新規事業を応援する各種商品をご用意しております。

【表06】 各種融資商品の設定状況（創業先等）

関西活性化融資ファンドⅠ（ワン）の取扱開始 (2013年5月開始以降、2021年3月末までの実行件数／実行金額の累計)	93件/3,521百万円
クリニック応援ローンの取扱開始 (2013年6月開始以降、2021年3月末までの実行件数／実行金額の累計)	1,081件/55,772百万円
介護事業応援ローンの取扱開始 (2013年6月開始以降、2021年3月末までの実行件数／実行金額の累計)	255件/24,832百万円
関西活性化融資ファンドⅡ（ツー）の取扱開始 (2014年4月開始以降、2021年3月末までの実行件数／実行金額の累計)	34件/286百万円
創業応援ローン“夢ひろがる”の取扱開始 (2015年9月開始以降、2021年3月末までの実行件数／実行金額の累計)	2,907件/20,531百万円
創業応援ローン“夢ひろがるプラス”の取扱開始 (2016年4月開始以降、2021年3月末までの実行件数／実行金額の累計)	253件/2,327百万円

創業応援窓口



中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況（2020年度）

③ 助成金制度（ニュービジネス助成金・イノベーション研究開発助成金）を運営

- ・当行は、地域の新規性や独自性等を有するビジネスプランを助成対象とした「ニュービジネス助成金」、地域の中小企業等が大学や公的研究機関等との共同研究、委託研究等を通じて行う将来性を有するビジネスプランを助成対象とした「イノベーション研究開発助成金」を取り扱っております。これらの助成金制度の応募総数は以下のとおりです。

【表07】ニュービジネス助成金の最近3年間の応募・受賞件数とこれまでの累計

	第19回 (募集期間) 2018/8~10	第20回 (募集期間) 2019/9~11	第21回 (募集期間) 2020/8~10	前年比	第1回からの累計
応募件数	105件	121件	116件	▲5件	2,438件
受賞件数	12件	13件	19件	+6件	250件

【表08】イノベーション研究開発助成金の最近3年間の応募・採択件数と累計

	第15回 (募集期間) 2018/8~10	第16回 (募集期間) 2019/9~11	第17回 (募集期間) 2020/8~10	前年比	第1回からの累計
応募件数	55件	83件	43件	▲40件	1,034件
採択件数	9件	9件	7件	▲2件	233件

④ 「新市場創造型標準化制度」に支援パートナー機関として参加

- ・「新市場創造型標準化制度」の地元中堅・中小企業への普及を目的に、2015年に創設された「標準化活用支援パートナーシップ制度」におけるパートナー機関として、取引先企業の標準化に向けた取組みのサポートを行っております。

⑤ ファンドを活用した創業先等に対する成長マネーの供給、ベンチャー企業の育成

- ・2025年の大阪・関西万博開催を見据え、「SDGsが達成される社会」、「Society5.0の実現」に向けて大阪・関西地域のオープンイノベーションによるベンチャーファンド「関西イノベーションネットワーク投資事業有限責任組合」を設立しました。関西地域の活性化に取り組まれる企業や公的機関から各々の連携手法により資金供給や成長支援で参画いただき、地域経済活性化につながる「産学官ネットワークによるイノベーションエコシステム」を構築するものであり、イノベーション創出が期待できる独自性の高い技術・サービスを保有し、将来性が見込まれる企業の育成に取り組んでおります。

(2) 成長段階における支援（主に成長期・安定期）

① 「M&Aアドバイザリー室」による事業譲渡・事業拡大サポート

- ・ソリューション営業部内に「M&Aアドバイザリー室」を設置し、事業戦略上の企業・事業買収ニーズや事業承継ニーズへの最適なサポートを提供しております。

【選択21】事業承継支援先数

【選択19】M&A支援先数

	2019/3期	2020/3期	前年比	2021/3期	前年比
事業承継支援先数	399先	418先	+19先	439先	+21先
M&A支援先数	32先	35先	+3先	38先	+3先

② 成長段階にある企業を応援する商品ラインナップ

- ・当行では、成長段階にある企業を応援するため、様々な商品ラインナップをご用意しております。
- ・環境保全に向けた取組みを実践する事業者や省エネ・節電、CO₂削減等を目的とした事業資金を対象とした「環境応援ローン」の取扱い。
- ・創業後間もないアリーステージにある事業者の「技術（技）」に着目し、公的研究機関や大学の専門家からの助言のもと、タイムリーに資金ニーズに対応する「ものづくり技術応援融資“技ひろがる”」の取扱い。
- ・「健康経営」や、「働き方改革」を実践する中小企業を対象とした「人財活躍応援融資“輝きひろがる”」の取扱い。



中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況（2020年度）

③ 成長段階における支援に関するセミナー等の開催

- ・企業の成長段階における支援を行うため、様々なセミナーを開催しております。これまでの開催状況は以下のとおりです。

〔表09〕 成長段階における支援に関するセミナー等の開催状況

次世代の経営者向け経営塾「萌芽塾」を開催 (2007年4月開始以降、2021年3月末まで)	累計140回開催
海外ビジネスセミナーを開催 (2010年5月開始以降、2021年3月末まで)	累計65回開催、参加総数2,464先
海外ビジネスミッションの派遣 (2010年5月開始以降、2021年3月末まで)	累計18回実施、参加総数262先
海外ビジネス商談会を開催 (2010年5月開始以降、2021年3月末まで)	累計15回開催、参加総数166先
ものづくり補助金の説明会を開催 (2014年2月開始以降、2021年3月末まで)	累計11回開催、参加総数880先
国内ビジネス商談会を開催 (2014年6月開始以降、2021年3月末まで)	累計42回開催、参加総数778先

④ 地域の雇用促進に向けた取組み

- ・地元企業の雇用促進と地域の求職者の就職支援を図るため、地元自治体や商工会議所、地元大学等と共同で合同企業説明会等を開催しております。
- ・2018年3月の金融庁監督指針改定を受け、同年11月に有料職業紹介事業の許可を取得するとともに、総合人材サービスを行うパーソルキャリア株式会社との協働スキームを構築し、「有料職業紹介業務」を行っております。
- ・お客さまから多くのご相談を頂戴する中、外国人材の正社員採用ニーズも多く寄せられていることから、有料職業紹介業務の拡充を目的に、日本で就職を希望する外国人留学生の紹介も実施しており、外国人留学生を対象とした合同企業面接会を開催しました。
- ・加えて、きらぼし銀行と業務連携し、取引先企業における主にパート・アルバイト従業員の給料日前の資金ニーズにお応えする「前給」サービスを提供するなど、地域の雇用促進に向けた取組みを進めております。

〔表10〕 合同企業説明会の開催状況

地元の地方自治体と合同企業説明会開催 (2012年7月開始以降、2021年3月末まで)	累計58回開催、参加企業総数2,718先、 内定者数250人
--	-----------------------------------

⑤ 異業種との連携

- ・「金(金融)」と「言(メディア)」が連携し、地元企業を応援するラジオ番組「日本一明るい経済電波新聞」を提供しております。多くの企業経営者の方に出演いただいております、これまでのラジオ番組出演企業数は以下のとおりです。

ラジオ収録風景



〔表11〕 ラジオ番組出演企業数

	2019/3期	2020/3期	2021/3期	累計 (2015年度以降)
ラジオ番組出演企業数	59社	47社	57社	282社

中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況（2020年度）

(3) 経営改善・事業再生・業種転換等の支援（主に再生期・低迷期）

① 金融仲介機能強化への取組み

- ・財務諸表に問題があるものの事業の継続性が認められる先に対して、これまでに蓄積してきた事業再生支援のノウハウを活用するとともに、借入金の一本化等による資金繰り支援を実施しております。

条件変更等に応じた取引先企業に対して、経営改善計画の策定支援及びその後のモニタリングを通じて、業況に応じたアドバイスを実施しております。

【選択23】事業再生支援先における実抜計画²策定先数、及び、同計画策定先のうち未達成先の割合

	2019/3末	2020/3末	前年比	2021/3末	前年比
実抜計画策定先数	451先	390先	▲61先	372先	▲18先
未達成先数	98先	96先	▲2先	130先	+34先
未達成先の割合	21.7%	24.6%	+2.9%	34.9%	+10.3%

② 株式会社地域経済活性化支援機構（REVIC）、大阪府中小企業再生支援協議会の活用

- ・当行はREVICや大阪府中小企業再生支援協議会等と定例的に情報交換を行い、取引先企業に応じて最適な外部機関と連携のうえ、事業再生支援に取り組んでおります。

【選択42】REVIC、大阪府中小企業再生支援協議会の活用先数

	2019/3期	2020/3期	前年比	2021/3期	前年比
REVIC	1先	0先	▲1先	0先	—
大阪府中小企業再生支援協議会	3先	2先	▲1先	7先	+5先

③ ファンドを通じた、経営改善先等に対する外部専門家のノウハウ・業務遂行能力等の提供

- ・当行は外部の専門家と連携し、中小企業を対象とした企業再生支援ファンドや事業承継ファンドなどファンドを活用した支援に取り組んでおります。

(4) ライフステージ別³の与信先数（先数単体）及び、融資額

- ・これらの取組みの結果、ライフステージ別の与信先数は以下のとおり推移しております。

【共通04】ライフステージ別の与信先数（先数単体ベース）及び、融資額

(上段：与信先数) (下段：融資残高)	創業期	成長期	安定期	低迷期	再生期	合計
2019年3月末	2,429先 1,050億円	2,782先 2,483億円	12,754先 12,970億円	947先 687億円	1,048先 587億円	26,523先 18,741億円
2020年3月末	2,259先 1,037億円	3,374先 2,856億円	13,094先 13,524億円	1,000先 745億円	1,029先 552億円	26,215先 19,264億円
2021年3月末	2,348先 1,142億円	3,496先 2,946億円	14,283先 15,140億円	1,208先 876億円	871先 532億円	27,557先 21,251億円

² 実現可能性の高い抜本的な経営再建計画

³ ライフステージの区分については、以下の基準により行っております。創業期：創業、第二創業から5年まで、成長期：売上高平均で直近2期が過去5期の120%超、安定期：売上高平均で直近2期が過去5期の120%～80%、低迷期：売上高平均で直近2期が過去5期の80%未満、再生期：貸付条件の変更または延滞がある先

中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況（2020年度）

3 中小企業に適した資金供給手法の取組状況

当社グループでは、取引先企業の事業価値を評価した取組みを行うとともに、他行に先駆けて、ファンドを活用した、ベンチャー企業支援を行っております。また、経営者保証に関するガイドライン（以下、ガイドライン）の趣旨を踏まえ、経営者保証に依存しない融資の促進を図るとともに、ガイドラインで示された合理性が認められる保証契約の在り方に基づく対応に努めております。

(1) 事業価値を見極める融資への取組状況

① 事業性評価による取引先サポート

- 取引先企業との対話の一層の深化を図るため、事業性評価ツールを導入し、取引先企業の強みや課題を知り、効果的な本業支援やソリューション提案と迅速な与信判断に努めております。

② 大阪信用保証協会と連携した事業性評価融資保証

- 大阪信用保証協会と連携した「金融機関連携型 事業性評価融資保証」として「成長応援融資 “ステージひろがるⅠ”」と「成長応援融資 “ステージひろがるⅡ”」の2商品を取り扱っております。本保証は、企業の将来性・成長性・経営力等を深く理解するために当行が作成する「事業性評価シート」と取引先が作成する「事業計画書」により、当行と保証協会が事業性や経営課題を共有するスキームとなっております。

(2) ファンドを活用したサポート力の強化

- 創業・助成金先に対する資金サポートのラインナップとして、ファンドを通じた投資による成長マネーを供給しております。また、連携協定を締結した地元大学における研究成果等を活用したスタートアップ・アーリーステージベンチャーや、産学の共同研究から生まれたジョイントベンチャー等への投資を目的としたファンドを設立しております。

(3) 経営者保証に関するガイドラインへの取組状況

① ガイドラインで示された保証契約の在り方に基づく対応

- ガイドラインにおける合理性が認められる保証契約の在り方に基づき、法人・個人の一体性解消と、一体性解消を確保維持するためのガバナンスの構築、経営の透明性（財務状況の適時適切な開示）を満たすことを要件に中小企業の保証契約を見直しております。

② 顧客対応状況

- また、ホームページにて「当行の『経営者保証に関するガイドライン』への対応方針」を開示するとともに、個々の融資先に対して、顧客から申し出があった場合だけでなく、新規融資申出のある先、事業承継先、保証期限到来先等についても対応しております。
- ガイドラインに沿った対応を行う際には、「経営状況確認チェックシート」に基づき、保証徴求方針及び適切な保証金額を提示したうえで、保証人にガイドラインの内容を説明のうえ対応しております。

③ ガイドラインに沿った取組みの推進

- 「融資基本規定」「与信取引に関する説明マニュアル」等の諸規定・マニュアルの改定を行うとともに、目利き力を生かした担保・保証・保証協会に依存しない融資の徹底を図っております。

【選択11】 経営者保証に関するガイドラインの活用先数、及び、全与信先数に占める割合

	2019/3期	2020/3期	前年比	2021/3期	前年比
全与信先数	26,523先	26,215先	▲308先	27,557先	1,342先
ガイドライン活用先数	5,216先	5,716先	+500先	14,852先	+9,136先
ガイドライン活用先数の割合	19.7%	21.8%	+2.1%	53.9%	+32.1%

中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況（2020年度）

【表12】 経営者保証に関するガイドラインの活用状況

	2019/3期		2020/3期		2021/3期	
	2018/4～ 2018/9末	2018/10～ 2019/3末	2019/4～ 2019/9末	2019/10～ 2020/3末	2020/4～ 2020/9末	2020/10～ 2021/3末
新規に無保証で融資した件数 (ABLを活用し、無保証で融資したものは除く)	2,021件	1,437件	1,820件	1,606件	4,164件	3,291件
新規融資件数	6,698件	6,039件	5,890件	6,053件	11,557件	8,190件
新規融資に占める経営者保証に依存しない融資の割合	30.2%	23.8%	30.9%	26.5%	36.0%	40.2%

【表13】 新規融資に占める経営者保証に依存しない融資の割合

	2021/3期
$\{(\textcircled{1}+\textcircled{2}+\textcircled{3}+\textcircled{4})/\textcircled{5}\} \times 100$	40.18%
① 新規に無保証で融資した件数	3,291件
② 経営者保証の代替的な融資手法として、停止条件付保証契約を活用した件数	0件
③ 経営者保証の代替的な融資手法として、解除条件付保証契約を活用した件数	0件
④ 経営者保証の代替的な融資手法として、ABLを活用した件数	0件
⑤ 新規融資件数	8,190件

【表14】 事業承継時における保証徴求割合（4類型）

	2021/3期
新旧両経営者から保証徴求 $= \{ \textcircled{6} / (\textcircled{6} + \textcircled{7} + \textcircled{8} + \textcircled{9}) \} \times 100$	5.88%
旧経営者のみから保証徴求 $= \{ \textcircled{7} / (\textcircled{6} + \textcircled{7} + \textcircled{8} + \textcircled{9}) \} \times 100$	11.76%
新経営者のみから保証徴求 $= \{ \textcircled{8} / (\textcircled{6} + \textcircled{7} + \textcircled{8} + \textcircled{9}) \} \times 100$	67.65%
経営者からの保証徴求なし $= \{ \textcircled{9} / (\textcircled{6} + \textcircled{7} + \textcircled{8} + \textcircled{9}) \} \times 100$	14.71%
⑥ 代表者の交代時において、旧経営者との保証契約を解除せず、かつ、新経営者との保証契約を締結した件数	2件
⑦ 代表者の交代時において、旧経営者との保証契約を解除しなかったが、新経営者との保証契約は締結しなかった件数	4件
⑧ 代表者の交代時において、旧経営者との保証契約を解除する一方、新経営者との保証契約を締結した件数	23件
⑨ 代表者の交代時において、旧経営者との保証契約を解除し、かつ、新経営者との保証契約を締結しなかった件数	5件

中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況（2020年度）

Ⅵ. 中小企業の経営支援及び地域の活性化に関する当社グループの重要指標（KPI）

当社グループの「中小企業の経営支援及び地域の活性化」は、以下の重要指標（KPI）が示すとおり、順調に推移しております。

(1) 提案力強化に関する当社グループの重要指標（KPI）

当社グループによる、経営改善やソリューション等の提案は以下のとおりとなっております。

※各項目の合計と内書きの和は重複があるため一致しません。	関連表	単位	2019/ 3期	前年比	2020/ 3期	前年比	2021/ 3期	前年比
〔独自01〕 経営改善提案を行っている先数		先	8,722	+516	8,743	+21	9,337	+594
〔選択14〕 ソリューション提案先数及び、 全取引先数に占める割合（注）								
ソリューション提案先数		先	8,351	+340	8,613	+262	8,049	▲564
全取引先数に占める割合		%	33.2	+0.5	33.6	+0.4	31.4	▲2.2
〔選択12〕 本業（企業価値の向上）支援先数		先	6,255	+244	6,271	+16	6,270	▲1
全取引先数における本業企業価値の 向上支援先数の割合		%	24.9	+0.3	24.5	▲0.4	24.3	▲0.2
〔独自02〕 産学連携件数	04	件	58	+3	65	+7	26	▲39
〔独自03〕 技術マッチング件数		件	70	▲8	70	—	40	▲30
〔選択13〕 本業支援先のうち、経営改善が 見られた先数		先	1,109	+269	1,386	+277	1,234	▲152
〔選択16〕 当行が行った創業支援先数の内訳 （複数提案あり）								
創業計画の策定支援		先	1,718	+278	2,277	+559	1,572	▲705
創業期の取引先への融資【プロパー】		先	361	▲124	307	▲54	181	▲126
創業期の取引先への融資【信用保証協会】		先	1,107	▲46	835	▲272	1,381	+546
政府系金融機関や創業支援機関の紹介		先	389	+44	511	+122	295	▲216
ベンチャー企業への助成金・融資・投資		先	1,463	▲45	1,287	▲176	1,677	+390
〔独自04〕 当行助成金応募件数	07	件	160	▲98	204	+44	159	▲45
採択・受賞件数	08	件	21	▲7	22	+1	26	+4
〔選択18〕 販路開拓を行った先数 （複数提案あり）	09							
地元		先	1,214	+216	1,095	▲119	224	▲871
地元外		先	36	▲43	29	▲7	3	▲26
海外		先	7	+1	4	▲3	2	▲2
〔選択19〕 M&A支援先数		先	32	+10	35	+3	38	+3
〔選択21〕 事業承継支援先数		先	399	+24	418	+19	439	+21
〔選択43〕 取引先の本業支援に関連する 中小企業支援策の活用を支援した先数		先	321	▲317	366	+45	1,386	+1,020
〔独自05〕 公的機関による認証等の支援件数		件	247	+84	244	▲3	203	▲41
〔共通03〕 当行が関与した創業件数・第二創業件数		件	3,855	▲535	4,229	+374	3,742	▲487
当行が関与した創業件数		件	3,843	▲530	4,216	+373	3,726	▲490
当行が関与した第二創業件数		件	12	▲5	13	+1	16	+3

〔選択14〕 ソリューション提案先数及び融資額、及び、全取引先数及び融資額に占める割合

	単位	2019/ 3末	前年比	2020/ 3末	前年比	2021/ 3末	前年比
ソリューション提案先数	先	8,351	+340	8,613	+262	8,049	▲564
全取引先に占める割合	%	33.2	+0.5	33.6	+0.4	31.1	▲2.5
全取引先に対する融資残高	億円	18,741	▲285	19,264	+523	19,346	+82
ソリューション提案先に対する融資残高	億円	4,954	▲796	5,874	+920	5,240	▲634
全取引先に対する融資残高に占める割合	%	26.4	▲3.8	30.5	+4.1	27.1	▲3.4
全取引先（グループベース）	先	25,130	+638	25,596	+466	25,843	+247

中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況（2020年度）

(2) ファンドの活用に関する当社グループの重要指標（KPI）

当社グループによる成長マネーの供給、ベンチャーの育成、外部専門家のノウハウ・業務遂行能力の提供等を目的としたファンドの活用に努めております。

【選択20】 ファンド（創業支援・地域活性化・事業再生等）の活用件数

	2019/3期	2020/3期	前年比	2021/3期	前年比
ファンドの活用件数	16件	9件	▲7件	8件	▲1件

(3) 経営改善・事業再生・業種転換等の支援に関する当社グループの重要指標（KPI）

当社グループでは、経営改善・事業再生・業種転換等が必要な取引先企業の支援に積極的に取組むとともに、事業性評価システムの導入等により、事業性評価の取組みを拡大・深掘りし、コンサルティング機能を発揮することで、経営改善指標の改善を図ってまいります。

【共通02】 貸付条件の変更を行っている中小企業の経営改善計画の進捗状況

	2019/3	2020/3	前年比	2021/3	前年比
貸付条件の変更先総数	948先	874先	▲74先	867先	▲7先
好調先 (売上高の進捗が120%超)	97先	85先	▲12先	61先	▲24先
順調先 (売上高の進捗が80～120%)	406先	330先	▲76先	301先	▲29先
不調先 (売上高の進捗が80%未満)	445先	459先	+14先	505先	+46先

(4) 地域活性化に関する当社グループの重要指標（KPI）

当社グループでは地元への企業誘致に積極的に取組むことで、地域の活性化に努めてまいります。

【選択17】 地元への企業誘致支援件数

	2019/3期	2020/3期	前年比	2021/3期	前年比
地元への企業誘致支援件数	22件	31件	+9件	26件	▲5件

【独自06】 合同企業説明会の開催

	2019/3期	2020/3期	前年比	2021/3期	前年比
合同企業説明会の開催回数	11回	10回	▲1回	3回	▲7回
参加企業数	265社	376社	+111社	57社	▲319社
内定者数 (内定者数は最新の計数に更新)	44人	26人	▲18人	5人	▲21人

中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況（2020年度）

(5) 中小企業に適した資金供給に関する当社グループの重要指標（KPI）

当社グループが事業性評価を行っている先、経営者保証ガイドラインを活用している先、担保・保証に依存しない融資を行っている先数は堅調に推移しております。引き続き、ガイドラインの趣旨を踏まえ、経営者保証に依存しない融資の一層の促進を図るとともに、ガイドラインで示された合理性が認められる保証契約の在り方に基づく対応に努めてまいります。

【共通05】 事業性評価に基づく融資を行っている与信先数及び融資額、及び、全与信先数及び融資額に占める割合

	2019/3	2020/3	前年比	2021/3	前年比
事業性評価に基づく融資を行っている与信先数	14,238先	15,554先	+1,316先	18,221先	+2,667先
上記計数の全与信先に占める割合	53.7%	59.3%	+5.6%	66.1%	+6.8%
事業性評価に基づく融資を行っている融資残高	11,996億円	13,332億円	+1,336億円	16,101億円	+2,769億円
上記計数の当該与信先の融資残高に占める割合	64.0%	69.2%	+5.2%	75.8%	+6.6%

【選択07】 地元の中小企業と信先のうち、無担保と信先数、及び、無担保融資額の割合（先数単体ベース）

【選択08】 地元の中小企業と信先のうち、根抵当権を設定していないと信先の割合（先数単体ベース）

	2019/3	2020/3	前年比	2021/3	前年比
地元中小企業と信先数	25,442先	25,093先	▲349先	26,423先	+1,330先
無担保融資先数	18,535先	18,336先	▲199先	19,894先	+1,558先
無担保融資先数の比率	72.9%	73.1%	+0.2%	75.3%	+2.2%
根抵当権未設定先数	19,127先	18,601先	▲526先	19,820先	+1,219先
根抵当権未設定先数の比率	75.2%	74.1%	▲1.1%	75.0%	+0.9%
地元中小企業向け融資残高	13,733億円	14,134億円	+401億円	16,014億円	+1,880億円
無担保融資残高	5,948億円	6,145億円	+197億円	7,666億円	+1,521億円
無担保融資残高の比率	43.3%	43.5%	+0.2%	47.9%	+4.4%

VII. 「中小企業の経営支援及び地域の活性化」に関する取組みの成果

(1) 中小企業向け取引の拡充

当社グループでは、取引先企業のニーズに応じた様々なご提案を行い、取引先企業の成長に資する取組みに努めることがメイン取引先数の増加に繋がると考えており、引き続き、取引先企業のニーズや課題に対して、最適なソリューションを提供できるよう努めてまいります。

【選択02】 メイン取引先数の推移、及び、全取引先数に占める割合

	2019/3	2020/3	前年比	2021/3	前年比
メイン取引（融資残高1位）先数の推移	12,647先	13,079先	+432先	13,698先	+619先
全取引先数に占める割合	47.7%	49.9%	+2.2%	49.7%	▲0.2%

【共通01】 メインバンクとして取引を行っている企業のうち、経営指標の改善や就業者数の増加が見られた先数、及び、同先に対する融資額の推移

	2019/3	2020/3	前年比	2021/3	前年比
メイン先数（先数はグループベース）	11,271先	11,420先	+149先	11,950先	+530先
メイン先の融資残高	8,794億円	8,981億円	+187億円	10,383億円	+1,402億円
経営指標等が改善した先数	7,366先	8,233先	+867先	8,214先	▲19先
経営指標等が改善した先に係る事業年度末の融資残高	6,533億円	7,136億円	+603億円	7,965億円	+829億円